

伝えたい
残したい
わがまちの
誇り



ふるさと 情景

VOLUME

13

千代田地区
(盛松寺の柚子みそ作り)



1



4



3



2

毎

年12月21日は一年最後の弘法大師の縁日である「終い弘法」の日であり、盛松寺ではこの日の参拝者に柚子みそがふるまわれます。この柚子みそは、病に苦しむ人々の健康と病氣治癒のために弘法大師によって、その製法が伝えられたとされています。

終

い弘法の2日前には、柚子みそ作りが行なわれます。まず柚子の中身をくりぬき、種を取り除いた実を、包丁でペースト状になるまでまな板の上でたたきます。ちょうどいい柔らかさになると白みそと合わせ、柚子の皮の中に入れ、柚子みそが完成します。

今

から約15年前までは、地域の人々が中心とした護持会から15人ほどが参加していた柚子みそ作り。護持会の解散後は、檀家の人々も加わり、現在は幅広い年齢層の30人ほどが参加しています。柚子みそ作りは、縁日の準備であると同時に、交流を深める場にもなっています。



ふるさと のひと

まつした せつこ
松下 設子さん

柚子みそ作りには40年くらい前から参加していて、毎年みなさんと一緒に作るのを楽しみにしています。冬至に食べると病氣にならないといわれる柚子みそはそのままでおいしい、焼き魚につけたり、砂糖を入れてジャムにしてもおいしいです。おかげさまで風邪ひとつひかず、元気に過ごしています。毎年12月21日の終い弘法の日に盛松寺でお配りしますので、ぜひお越しください。



①柚子みそを個包装する作業②包丁でたたく音が本堂に響き、柚子の香りに包まれる③柚子の皮の中にみそを入れる④柚子みそ作りに参加したみなさん

※盛松寺へは千代田駅より徒歩約15分。